

## 第1回地域交流センター（仮称）建設検討委員会会議記録

日時：令和6年6月26日（水）午後1時30分～午後3時30分

場所：役場3階大会議室

出席者：委員8名、事務局3名、設計者3名、オブザーバー（教育委員会）1名

### 1. 開会

### 2. 町長あいさつ

### 3. 検討委員の紹介

### 4. 協議

#### ①正副委員長の決定について

委員長：中平 雅之（区長会長）

副委員長：不在とする

#### ②検討委員会の目的と進め方について（資料1）

- ・事務局により説明
- ・第2回委員会は7月下旬に参考となる施設の視察を行う予定（岐阜県内）。日程は先方との調整後連絡
- ・第3回以降の日程等は資料1参照

#### ③現福祉センターの状況について（資料2）

事務局により説明

#### ④地域交流センター（仮称）の改築案について（資料3）

委員）ダンスで使う際は具体的にどの部屋を使えばよいか。現在は大ホールや中ホールを使用している。

設計者）規模で言えば今の中ホールと同規模な大きさは大会議室。アクティブな活動をされる方は多目的室を利用いただけるとよいのではないか。多目的室を2分割、3分割することも可能と考える。

委員）松川町の「えみりあ」は一枚はめ込みの鏡がある。アクティブな活動をする際は、膝にやさしい素材を使ってほしいという要望があった。

委員）防音措置がしっかりされていると使いやすい。

委員）子どもが遊べる場所、エアコンがきちんと効く部屋があるとよい。

委員) ひさしが伸びていると荷物を降ろしたり、車いすの方が濡れずに乗り入れできる。

委員) 「えみりあ」は一階にじゅうたんのスペースがあって、土足ではなく座って話せる場所がある。

委員) シニア世代で福祉センターを使う機会が多いのは大ホール。今回の図面を見ると2階の多目的室になるかと思う。傾斜型の席は常時設定されているものか。

設計者) 壁にしまい込んでフラットに使うことが可能。

委員) 多目的室は現在の大ホールとの大きさは？

設計者) 今の大ホールと同規模。

委員) 現在の大ホールは音響が悪い。また照明も素人では使用できない。誰でも使用可能な照明設備にしていきたい。現在照明が水銀灯であるため使用しづらい。

町内にはお年寄りが集う場所が少ない。ボランティアセンターが地域交流センターとなっているが使いづらい。現在の案ではそういった場所を設けていただいているのでありがたい。

設計者) 使いやすさが大事なポイントとなってくる。誰でも使いやすいということが重要(ユニバーサルデザイン)。

委員) 現在使われている部分。子ども家庭総合支援室はどこかへ新設するのか？いろいろなところに本があってもそこに人がいなければ飾りになってしまう。そのスペースはどんな方が使用するのか。現在の大ホールで健康診断をしているが、それは今回の提案ではどこですることになるのか。健診の際はおてこの会に託児をお願いされることがある。そういったスペースはどこになるのか。

事務局) 図書館も手狭になっている。今ある必要な機能は、場所は違えど必ず残る形。

設計者) 施設を組み替えるということも重要。今ある3つの施設(役場、福祉センター、公民館)にある部屋を適切な場所に組み替えて適切な場所に設置していくことが必要。

委員) 子どものことを大事に考えていただきたい。小さいお子さんや相談室機能、中間教室機能は町で大切にしていっていただきたい。

委員) 福祉センターにほとんど足を運んだことがなく、施設の概要も今日初めて知った。図書館は利用させていただいている中で、福祉センターの1階に遊べるスペースがあるということは知っていたが、少しくらいイメージ。親としては衛生的で安全で子どもを遊ばせながら周りのお母さんたちと情報交換をしながら、ちょっとした小上がりなんかで食事をとれたりするとよい。大きい子と遊ぶと危ないと感じる場面もある。そういったすみ分けもできるよよいと思う。

事務局) 福祉センター1階は、あったかてらすができる前は子育て支援センターだった場所。

設計者) 子どもが安心・安全で健康に遊べる場所というのはとても重要。せっかく新しくできるスペースなので、日当たりのいい環境を整備していきたい。管理者が常駐し

て管理していくには行政的には手間がかかってくる。

委員) 子どもというものをターゲットとしたスペースの提案はよいと思った。西側はひさしができているが、東側はどうなるのか。

設計者) 現在よりも東側に建物は広がるため、今くらいの庭のスペースはなくなる。

オブザーバー) 子育て相談室をなくすということは全く考えていない。3つの施設を組み替えていくなかで適切な場所に設置していきたい。

委員) 福祉センターの役割が、高齢の方が中心で、子育て世代は入りにくい。

委員) 中学生のなかでは不登校の方が多く40名ほどいる。小学生から中学生にかわると変わってしまう。特に北小の子たちは馴染めない。中学校の近くに通える場所がよい。いろいろなところに本が読める場所があるのはいいと思う。学習室に本を設置することはいいと思う。学習室も迎えが来たら見える場所に設置されているのでありがたい。

設計者) 最近の図書館はいろんな読み方ができるようになっている。どういった場所にどんな本を置いていくかといった提案もしていきたい。神奈川県の大和市にある図書館など参考になる。

委員) 傾斜型移動観客席はぜひ導入していただきたい。

設計者) この施設はいろいろな使い方ができるというのが重要となってくる。

委員) 役場3階の議場は足腰が悪い人には使いづらい。全協をやろうとしても現在の役場3階の大会議室では少し狭い。議会の委員会をやる際は2つの部屋を使うことになる。

子育て施設が何箇所にもあればいいが、あったかてらす等あるものはしっかり使ってもらう必要がある。

設計者) それぞれの施設で適切な機能というものがある。

委員) 子育て支援や家庭支援も重要だが、高森町は高齢者に目が向いていないという意見が出る。高齢者が集う場所がないという意見が出た。

事務局) 次回は7月下旬に視察を予定している。日程調整したうえで委員の皆さんにご連絡させていただく。